



海外でのコンサルタント活動のお奨め

神田昭夫 (電気電子部門)

本誌の読者の大半が企業内技術士と思います。定年後の処遇としては、自社に残り嘱託または顧問として活動するか、関連会社の支援を紹介されると思いますが、とても満足できる額ではないはずですが、定年後に有る程度まとまった収入を得ようと思えば近隣国の大会社の技術コンサルタント業がお奨めです。

・コンサルタント先の選定

- 近隣諸国としては、韓国、中国、台湾がありますが、韓国がお奨めです。理由は
- ① 日本への技術士に対する評価が極めて高い。
 - ② 日本を含め海外からの技術導入をしている大企業が多い。
 - ③ 導入した技術を消化しきれていない企業が日本の技術者の支援を望んでいる。
 - ④ 導入した技術に改良を加えたり、新たな技術を開発したりする人材が乏しい。
 - ⑤ 日本の実績を知り参考にしようとするベンチマーク思考が強い。
 - ⑥ 日本並みの賃金に近づいているので、高給で処遇しても目立たない。
 - ⑦ 日本に近い生活感覚が保てるし、距離も近い。

・コンサルタント先へのアプローチ方法

- ① INTERNATIONAL BRAIN BANK (IBB) KOREA, IBB JAPAN を通じての開拓
- ② 韓国電子工業振興会、電気工業振興会、機械工業振興会等の機関を通じた開拓
- ③ その他韓国中小企業振興公団日本事務所を通じての開拓 (中小企業が相手なので高いコンサルタント料は望めないが、機会は多い)

現在では①によるのが最も容易、かつ費用も少なくすみます。

・勤務形態の種類

- ① 年間連続勤務
- ② 1か月に1週間か2週間の部分的勤務
- ③ 1か月に数日の勤務
- ④ 必要な時期のみの不定期勤務

私は②としましたが、雇用先の必要度と、自己の都合により協議で決定できます。

・コンサルタント料の契約形態

- ① コンサルタント料、宿泊費、食費、交通費を含めた総額契約
- ② コンサルタント料のみ支給、他の費用は全部雇用先負担とする契約
- ③ コンサルタント料以外の費用は一定額を支給 (交

通手段、宿泊先、食事は個人の自由)

私は、見掛け上のコンサルタント料が少ない②としましたが①、③のケースも多い。

・報酬

課長級から役員級までの幅広い処遇例があります。報酬額は雇用先の要求に合う経歴の有無、専門性の深さで決まる。技術士の資格以外の中小企業診断士等の公的資格および博士等の資格は報酬交渉のカードとして使える。こちらは高いほど良い、相手は低いほどよいのでどこで妥協するかは交渉力次第です。ただし、相手が必要とする技術との強いマッチングがないと高い報酬は望めません。最も高い報酬を得ることができるのは、ライバル会社からの勧誘が有った場合ですが自分の古巣との関係が微妙であり、この問題をどのように処理できるか鍵です。

・言葉の問題

韓国の大会社では、英語の能力が一定レベル以上ないと幹部への昇進はありません。よってコンサルタント上の使用言語を英語とすることに全く問題はありせん。コンサルタント側として、契約交渉、契約書の作成、各種報告書および提案書の作成が英語でできることは、高額なコンサルタント料を得る必須条件です。

中国の企業を3年、韓国の企業を6年、韓国の中小企業を12年(現在も継続中)支援してきた経験および韓国側から日本人技術者のリクルートの要請を受けてきた経験から、海外でのコンサルタント活動を自分の将来像として描いて居られる方のご参考になれば幸甚です。ちなみに、私の韓国の大企業でのコンサルタント先は古巣のライバル企業でした。

個人的に相談に乗りますので必要な方は kanda.akio@nifty.com までご一報ください

以上

**長崎大学公開講座『安全安心工学入門』サステナブルな社会を目指して-安全安心は長崎から-を受講して
松本 守 (建設部門) (有)創拓エンジニアリング**

初めに自己紹介をさせて頂き、標題の公開講座を受講し、考えたこと、感じたことを述べたいと思います。私は、昭和51年3月に大学を卒業し、地元の建設コンサルタントに入社し、約11年間勤めさせて頂きました。その後現在の会社を昭和63年2月に立ち上げ、現在に至っております。主な業種として、港湾、海岸関係の業務(波浪推算、防波堤、岸壁、海岸護岸の設計)を行っています。技術士試験は本年3月やっと合格し、6月の県技術士会の新人歓迎会に参加させて頂

きました。とうが経った新人ですが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

さて、標題の長崎大学公開講座『安全安心工学入門』ですが、この講座は、ものづくり、生活、自然災害に対する安全安心に関わる工学の考え方を学ぶと同時に、地域の実情を踏まえた高齢者、要援護者の生活、自然災害に対する安心安全と、工学が社会の安全安心と人類の平和のためにあるという意識をもった技術者を育成することを目的としています。

我が国は、国土面積のうち洪水・高潮・津波災害を受けやすい1/10の洪積平野を中心に人口の1/2、資産の3/4が集中しています。長崎県の集中度はさらに高く、過去には、諫早大水害、長崎大水害、普賢岳火山災害等の大規模な災害のみならず、毎年の台風来襲時には県下の何処かで河川・道路・港湾等の施設が被災しています。こういった中、長崎県という地域に限定して、防災における安全・安心を考える取り組みは、そこに暮らす長崎県民のみならず社会資本整備に携わる私たち技術者にとっても大変有意義な取り組みと思います。

私は約23年間港湾構造物の設計に携わっておりますが、2,3年に一度は県下の何処かの防波堤や海岸施設が被災し、その被災原因、復旧計画の業務を行っています。港湾の技術基準は平成19年度に、手段を規定する仕様規定から、構造物に求められる性能のみを規定し、設計結果に至るプロセスを規定しない性能規定に移行しています。安全率や許容応力度等の仕様規定では、限界状態が不明なため、構造物の真の安全性は評価できません。その構造物の限界状態を明確にする方法が限界状態設計法であり、その照査方法として限界状態関数に基づく確率論によって安全性の定量評価をおこなうのが信頼性設計法です。信頼性設計法は、構造物の破壊可能性、言い換えれば安全性を確率論に基づく手法によって制御する方法で、三つの設計水準（設計用値（部分係数）、信頼性指標、破壊確率）があり、信頼性設計法の適用においては目標安全水準を定める必要があります。この目標安全水準までの性能設計から、絶対安全（現実にはあり得ない）までの領域を含めて、安全安心工学という新しい学問分野を取り入れ、習得することは私のような港湾構造物設計に携わる技術者にとって、必要不可欠であると思えます。

我が国政府の重要政策課題の一つとして“安全安心な社会の構築”が掲げられています。私たち社会資本整備に係わる技術者は、社会が受け入れ可能で安全で安心して暮らせる社会を構築するために、安全安心工学という新しい学問領域の知識や技術習得に積極的に取り組み、業務に反映させていく必要があると考えます。

以上

支部の動向など

長崎地区代表幹事 大橋 義

1：(社)日本技術士会の公益法人化の動きについて
現在、公益法人化に向けての検討がされています。これに伴い、現在の九州支部や各地区の会則、組織等も一部変更になってきます。

これに伴い、日本技術士会の会員組織と現在の長崎県技術士会との関係を明確にし、長崎県内の日本技術士会会員と非会員で組織している現在の「長崎県技術士会」と日本技術士会長崎地区会員との連携をこれまで以上に強化するような組織方策について、これから検討に入ります。

役員会において、(案)を策定し新しい会への移行に当たっては総会等で会員皆様に諮り実施に移る予定です。会の更なる発展へ向けての機会になることを願っています。

2：九州支部「平成22年度技術論文」募集について

昨年に引き続き、本年度も論文発表会があります。このための論文募集を行っています。昨年は長崎地区より2名の方が発表され、長崎県技術士会の藤村幹治技術士が最優秀賞を受賞されました。本年度も長崎地区より多くの皆様の応募をお願いいたします。

論文提出は、技術士及び修習技術者となっておりますが会員に限定していませんので、どなたでも応募出来ます。特に、皆様の周辺の修習技術者には技術士試験問題に準じた課題となっておりますので、応募を呼び掛けてください。

詳細は九州支部のHPにありますので、確認の上応募してください。多くの皆様の応募をお願いします。

3：九州支部「第30回地域産官学と技術士との合同セミナー」—地域に根ざした技術士の社会貢献—の開催について

平成22年10月23日(土)10:00~17:00 福岡市商工会議所にて開催されます。

有意義なセミナーと思います。詳細は九州支部のHPにありますので、確認の上申し込んでください。多くの皆様の参加をお願いします。

4：「平成23年度西日本技術士研究・業績発表年次大会」の開催について

平成23年11月21,22日に長崎市で開催することで、実施(案)を検討中です。

実施に当たって長崎県技術士会は共催となります。会員の皆様には色々とお世話をお掛けいたしますが、ご協力の程宜しくお願ひします。

5：「平成22年度技術懇話会」の開催について

本年度も、平成22年11月27日に佐賀県武雄市で

開催されます。長崎県技術士会は共催をしています。

長崎県技術士会からも例年のとおり講師を派遣します。開催内容が決まりましたらご案内しますので多くの会員の参加をお願いします。

6：「ながさき建設技術フェア2010」の開催について

本年度も(財)長崎建設技術研究センターの主催で、10月7日(木)及び8日(金)に長崎市の長崎県立総合体育館で開催され、長崎県技術士会も後援をしています。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

尚、今回は「全国土木施工管理技士会連合会の学習プログラムに認定されているとのことです。

長崎県技術士会の活性化の一環として

副会長 山口和登(応用理学)

技術士としての義務を果たし、責任を全うしていくためには、常に最新の技術や知識を修得し、能力の維持・向上を図ることが必要です。技術士のみならず国際化の進展や国内の雇用情勢の変化等により、一般の技術者の継続教育(CPD)の必要性が広く認識されるようになって来ました。多様化した社会において新しい課題に的確に答えていくためには、専門とする技術領域はもとより、幅広い領域で技術を修得していくことが必要です。このためには、大都市のみならず各地域・地方における継続教育(CPD)の開催、すなわち技術者の継続教育受講機会を適切に確保することもその一方では必要であります。しかし、地方においてはその機会を的確に確保することが諸条件から難しいのが現状です。

長崎県技術士会においても例外ではなく、継続教育の一環としての研修会の講師選定や参加者確保などで特に苦勞しているのが現状であります。同じような苦勞は技術士会のみでなく、他の学会等においても同様であり、縁あって(社)地盤工学会九州支部長崎地盤研究会の棚橋会長(長崎大学工学部教授)も同じような悩みを持っておられることが伝わりました。この為、大橋代表幹事と共に棚橋会長を訪ね善後策を協議しました。その結果、長崎地盤研究会が主催する勉強会「ジオラボ」を長崎県技術士会が後援し、上記の悩みや苦勞を一部共有し、また会員に継続教育(CPD)への参加機会をより多く提供しようとの結論になりました。その結果、後援した第1回目の研修会は8月6日(金)佐世保市山澄地区公民館で開催された第80回勉強会「ジオラボ」で、長崎大学大学院生など約30名(技術士会から10名)参加でした。勉強会の詳細は紙面の関係上省略しますが、①音響トモグラフィによる地盤の可視化{(株)地域地盤環境研究所 九州地盤環境研究所 山内淑人所長} ②建設工事と環境保全 {ふるさと自然の会

川内野義春副会長}の2題が講演され、地盤工学会の継続教育参加証(ポイント3.5)が発行されました。研修会終了後、20名が参加して懇親会が開催され、技術士会からも6名が参加し意見交換などを活発に行いました。

前回は佐世保市で開催(年に1回は佐世保地区で開催)されましたが、今後も長崎市の長崎大学等での勉強会や現場見学会など定期的に計画開催されますので、長崎県技術士会としても後援する予定です。具体的には10月15・16日に島原中央道路の眉山トンネル建設現場、国道251号沿い岩盤斜面の見学会(CPDポイント対象)を後援する予定をしております。また長崎地盤研究会から技術士会に対し「ジオラボ」への講師派遣なども依頼されており、色々な形で協力の輪を拡げて行くように検討中です。更に来年の11月には「第17回 西日本技術士 研究・業績発表年次大会」を長崎で開催するように準備を進めているところです。ちなみに、今年の第16回は奈良市で11月26・27日に開催されます。以上のように、長崎県技術士会の地域への貢献や、知名度の向上、会員への継続教育(CPD)への参加機会提供などの一助となればと思い活性化の一環として活動しております。

現在は、前記のとおり関係者で計画をしていますが、活性化のためには会員各位、特に若手会員の声、アイデアを期待していますので、事務局まで大いに提案して下さい。会員の連携と活動の継続が大切と考えます。よろしく申し上げます。

機関紙発行担当者より

会費納入のお願い

会員の皆様には日頃より当会の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。当会の運営は支部からの助成金のほか、皆様の年会費(正会員3,000円、準会員1,000円)等で運営されていますが、8月末現在で50有余名の皆様から年会費の納入をいただいています。会費の振込先は以下の通りです。会費納入について重ねてご協力をお願い致します。

<振込先>

十八銀行 桜町支店 普通預金 NO. 024599

長崎県技術士会 代表幹事 大橋 義美

<住所>〒852-8064 長崎市北陽町39-21

TEL:095-865-5200

会費納入等についてのお問い合わせは桐原または山口和登(長崎地研;TEL:0956-46-1005)までお願いいたします。

大栄開発(株) 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町2690番地

TEL:0956-31-9358、FAX:0956-32-2711

E-mail: s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp